

平成29年5月13日(土)

しばやまいせき

芝山遺跡第16次 B・D地区現地説明会資料

調査場所 城陽市富野中ノ芝ほか

調査期間 平成28年4月25日～平成29年3月3日

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

はじめに

芝山遺跡は、城陽市東部に広がる丘陵の西端に立地しています。東西約950m、南北約840mの範囲に広がり、芝山古墳群や梅の子塚1・2号墳（前方後円墳、全長87m、全長65m）などの古墳が遺跡範囲内に所在しています（第1図）。これまでに15回に及ぶ発掘調査で古墳（付表）や奈良時代の掘立柱建物跡などが検出されています。

平成28年度は、新名神高速道路整備事業に伴い6地点で発掘調査を実施しました（第2図、A～F地区）。今回はB・D地区で検出した古墳の成果を中心に報告します。

調査の成果

1) B地区の調査（第3図）

B地区では方墳2基、埴輪棺3基などを検出しました。

古墳1（写真1・2） 一辺9.0mの方墳で、幅2.0m、深さ0.3mの周溝が巡ります。墳丘のほぼ中央で埋葬施設1基を検出しました。埋葬施設は全長4.5m、幅1.6mの墓壇を穿ち、その中に割竹形木棺を納めていたと推定されます。木棺の小口部分を粘土で固定し、棺身と棺蓋が接する棺の側辺部を粘土で目張りしています。副葬品は出土しませんでした。

古墳2（写真3～5） 一辺13mの方墳で、幅3.0m、深さ0.6mの周溝が巡ります。墳丘上で3基の埋葬施設を検出しました。埋葬施設は南北に平行して並んでおり、埋葬施設1・2は割



第1図 調査地及び周辺遺跡分布図
(国土地理院 1/25,000 宇治)

竹形木棺を納め、埋葬施設3は土壇墓と判断されます。埋葬施設1は全長6.5m、幅1.5m、埋葬施設2は全長6.7m、幅0.6m、埋葬施設3は全長2.6m、幅1.0mを測ります。埋葬施設1・2は古墳1の埋葬施設と同様、木棺の小口を粘土で押さえ、側辺を部分的に粘土で目張りしています。埋葬施設2からは勾玉1点と管玉13点、木質が付着し木箱に納められたと考えられる青銅製の鏡が出土しました。

埴輪棺（写真6） 埴輪棺は円筒埴輪や朝顔形埴輪を組み合わせて棺としたもので、3基検出しました（埴輪棺1～3）。このうち、埴輪棺2は、南側の小口に盾と推定される線刻を施した埴輪片でふさがれていました。

古墳1・2や埴輪棺は、出土遺物や埴輪の年代観から、古墳時代前期末から中期前半（5世紀初め頃）のものと考えられます。

このほか、表土直下で青銅製の鏡1点、竹の根の攪乱から石釧片が出土しました。鏡は獣形鏡で、中期中葉頃の国産鏡と考えられます。調査地周辺に鏡や石釧が副葬された古墳が存在していたと推定されます。

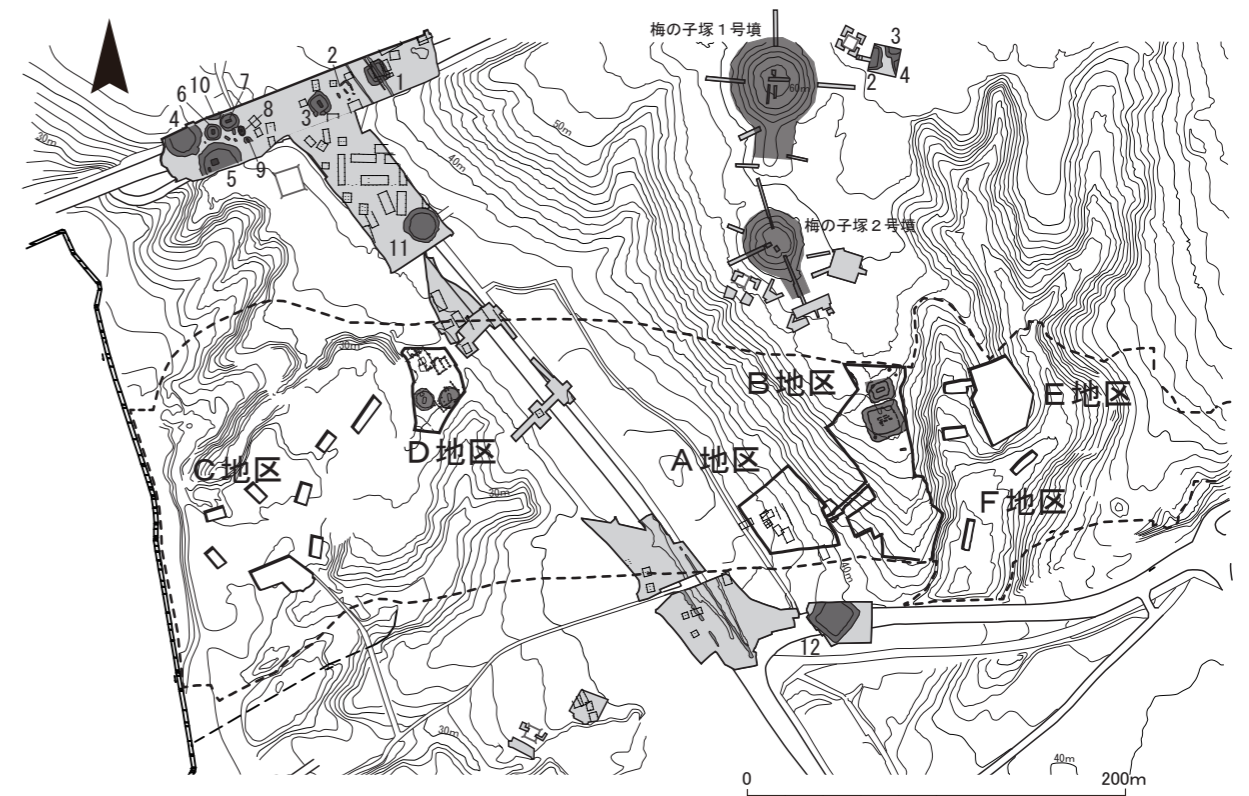
2) D地区の調査（第4図）

円墳2基のほか、奈良時代の掘立柱建物跡2棟などを検出しました。

古墳3（写真8・9） 直径11mの円墳で、幅0.9～1.4m、深さ0.2～0.5mの周溝が巡ります。埋葬施設は1基で、全長3.4m、幅1.8mの墓壇と、内部で全長2.6m、幅0.5mの木棺痕跡を検出しました。木棺内の北・南側で完形の須恵器壺や杯身・杯蓋、西辺で長さ110cmの鉄刀が出土しました。

古墳4（写真10） 直径11.5mの円墳で、幅0.3～0.5m、深さ0.3m前後の周溝が巡ります。周溝の規模が小さいことから、当時の地表面は大きく削平されたものと判断されます。墳丘内で1基の埋葬施設を検出しました。埋葬施設は、全長3.8m、幅1.7mの墓壇と、その内部で全長2.7m、幅0.5mの木棺痕跡を検出しました。木棺内の南端部で、ほぼ完形の須恵器杯身・杯蓋、壺などが6点出土しました。

出土遺物から、古墳時代後期前半～中頃（6



第2図 芝山遺跡の調査（古墳番号は付表に対応。B地区丘陵上の1・13号墳は地図外に分布）

世紀前半～後半）のものと判断されます。

まとめ

今回調査を実施した芝山遺跡には、古墳時代前期末の首長墳である梅の子塚1・2号墳が存在しています。これらの古墳は、城陽市域を中心とする久津川古墳群のなかでも、最も早い段階の首長墳であり、B地区で検出した古墳1・2は、同じ丘陵上に造られています。

古墳1・2は一辺10m前後の小規模な方墳で、梅の子塚古墳と比べて小さな古墳ですので、梅の子塚古墳に葬られた首長を支えた人たちが埋葬されたと考えられます。そのため、小規模な古墳ながらも、鏡や玉類などの副葬品が納められたのでしょうか。

古墳時代中期になると首長墳の多くは、北西約1kmの久世地区に築かれるようになります。芝山遺跡では、中期末～後期にD地区とその北側、梅の子塚古墳が築かれた丘陵上より20mほど低い平坦面に小さな円墳が多数築かれます。これらの古墳は、富野地区に勢力基盤をもつ在地の人たちが葬られたと考えられます。

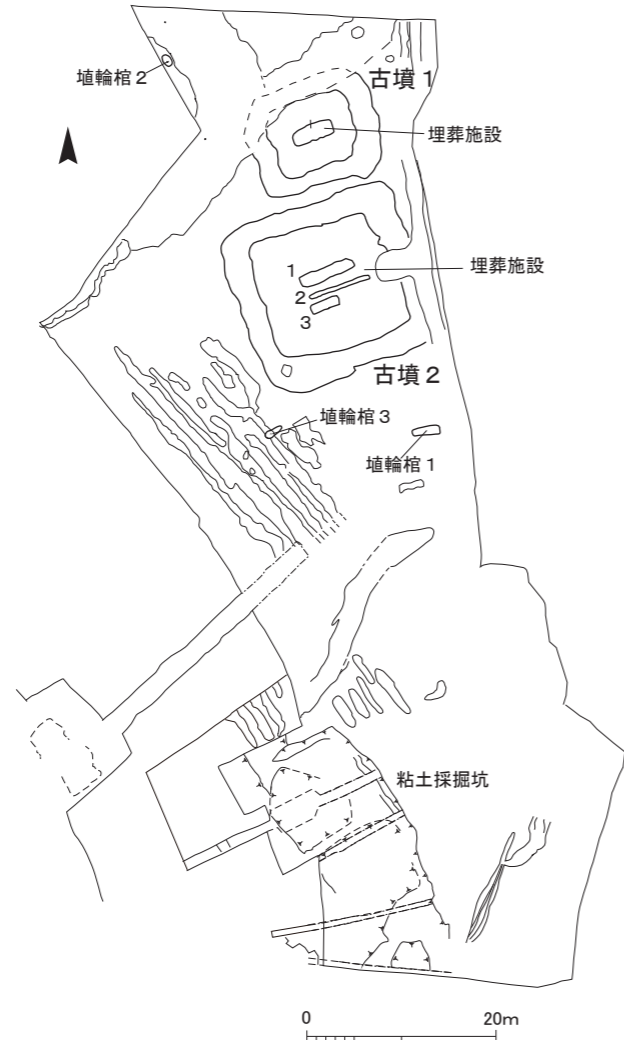
同じ古墳群にありながらも、時期や墳形、副葬品により、被葬者像が異なることがわかります。



写真1 B地区古墳1全景
(北東から)



写真2 B地区古墳1埋葬施設
(西から)



第3図 B地区検出遺構配置図

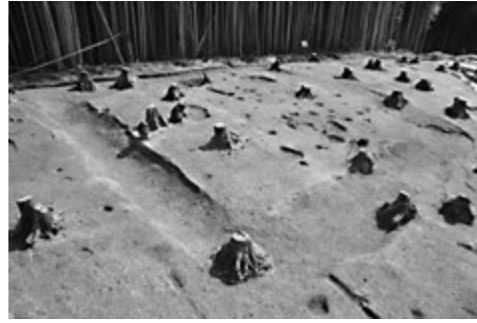


写真3 B地区古墳2全景
(北西から)

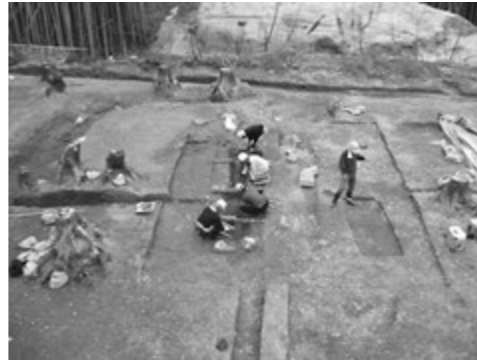


写真4 B地区古墳2
埋葬施設調査状況 (西から)



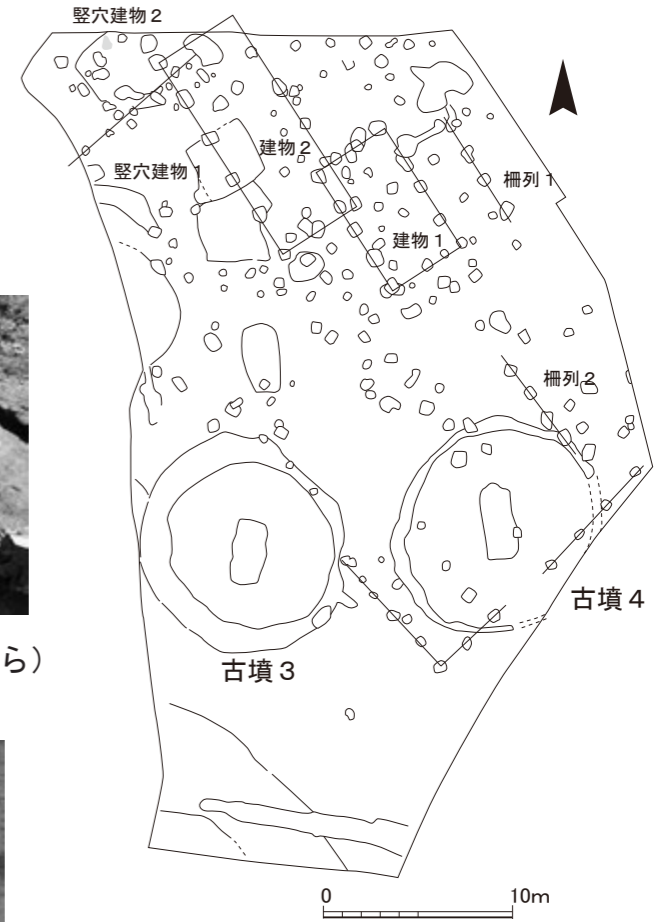
写真5 B地区埋葬施設2
遺物出土状況 (南から)



写真6 B地区埴輪棺
(南から)



写真7 D地区全景 (北から)



第4図 D地区検出遺構配置図



写真8 D地区古墳3全景 (北から)



写真9 D地区古墳3鉄刀出土状況
(東から)



写真10 D地区古墳4全景 (北から)

付表 芝山古墳群一覧

群	番号	墳形		埋葬施設		遺物		時期	備考
		墳形	規模	構造	規模	埋葬施設	周溝		
B地区丘陵上	1号墳	方墳	10.4m×11.4m	削平	不明	—	須恵器	中期後半	
	2号墳	方墳	11m×10m	削平	不明	—	須恵器	中期中頃	
	3号墳	方墳	不明	不明	不明	不明	須恵器	中期後半	
	4号墳	方墳	不明	不明	不明	不明	須恵器	中期中頃	
	12号墳	方墳	一辺17m	不明	不明	—	埴輪	中期中頃	
	13号墳	不明	不明	不明	不明	—	埴輪	不明	
	古墳1	方墳	一辺9.0m	木棺直葬	4.5m×1.6m	なし	土師器	中期前半か	
	古墳2	方墳	一辺13.0m	木棺直葬1 木棺直葬2	6.5m×1.5m 6.7m×0.6m	なし	鏡・玉類	中期前半か	
D地区平坦面	1号墳	方墳	一辺10m	削平	不明	—	須恵器・鉄斧	中期末	
	2号墳	方墳	一辺8.5m	木棺直葬	2.8m×1.5m	—	—	—	1・3号墳と同時期と推定
	3号墳	方墳	一辺11m	木棺直葬	3.9m×1.5m	須恵器	須恵器	中期末	
	4号墳	円墳	直径17.4m	削平	不明	—	須恵器・鉄鏃	後期前半	
	5号墳	円墳	直径20m	削平	不明	—	—	—	
	6号墳	円墳	直径7.4m	木棺直葬	2.3m×1.5m	須恵器	—	—	後期中頃
	7号墳	円墳	直径9.3m	木棺直葬	2.9m×1.4m	須恵器・刀子	—	—	後期中頃
	8号墳	楕円形墳	5m×3.4m	木棺直葬	1.5m×0.8m	須恵器	—	—	後期後半
	9号墳	円墳	不明	木棺直葬	4.4m×1.6m	須恵器・土師器	—	—	後期後半
	10号墳	円墳	不明	削平	不明	不明	不明	—	周溝の一部のみ確認
	11号墳	円墳	直径16m	削平	不明	—	須恵器・紡錘車	後期前半	
	古墳3	円墳	11m	木棺直葬	3.4m×1.8m	須恵器・鉄刀	なし	—	後期前半
古墳4	円墳	11.5m	木棺直葬	3.8m×1.7m	須恵器	なし	—	後期中頃	